

平成17年

12月

No. 506



広 報

いいいたて

<http://www.vill.iitate.fukushima.jp>



▲アンカーの森永監督を胸上げし優勝を喜ぶ選手たち

11/20

ふくしま駅伝 村の部3連覇！

「第17回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（通称：ふくしま駅伝）」で、飯舘村チームが村の部で3年連続、通算13回目の優勝を果たしました。（関連記事2～5ページ）



大いなる田舎 まていうイフ・いいいたて

最終区で大逆転！

村の部3連覇 総合順位は11位

ふくしま駅伝ダイジェスト



▲スタートする1区の武田選手（写真中央）

11月20日、「第17回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会（通称・ふくしま駅伝）」が、白河市から福島市までの16区間、95・7kmのコースに、県内73市町村が参加して行われました。

今回の大会では、昨年に続き、前半の部（1区～7区）と、後半の部（8区～16区）に分け、それぞれ前半賞と後半賞が設けられたほか、一部のコースが変更され、昨年より距離が延びています。

この大会に参加した飯舘村チームは、通算5時間26分34秒のタイムで完走し、村の部で3年連続、通算13回目の優勝を果たしました。

総合順位は11位。また、5人が区間賞（村の部）に輝きました。

前半の部（1～7区）

秋晴れの駅伝コンディションとなったこの日。午前8時、白河総合運動公園陸上競技場から73選手が一斉にスタート。16区間、95・7kmの戦いが始まりました。

社会人や高校生など各市町村のエース級がそろった「花の1区」。中学生の武田美由紀選手が区間19位と健闘し、2区の藤井慶介選手へつなぐと、藤井選手が区間7位の快走で、一気に総合6位まで浮上しました。

さらに、4区～6区の高田涼選手、大内龍太郎選手、巻野修一選手と3連続で区間賞をとり上位をキープ。



▲藤井選手（2区）



▲高田選手（4区）



▲佐藤選手（10区）



▲川村選手（14区）

前半の部のゴールとなった郡山市開成山陸上競技場に、飯舘村は村の部1位、総合7位でゴール。前半賞を獲得しました。

村の部2位の泉崎村との差は1分31秒。後半の部に上位入賞の期待がかりました。

後半の部（8～16区）

全国大会へ出場する泉崎中をはじめ強豪メンバーを揃え、猛烈な追い上げを見せた泉崎村。8区で村の部1位に躍り出る

と、その後も徐々に飯舘村との差を広げました。

飯舘村は、チーム初の親子出場となった川村仁選手・公大選手をはじめ、若手とベテラン選手がそれぞれ力を発揮し、着実に次の区間へとタスキをつないでいきました。

最終16区、アンカーの森永伸一選手がタスキを受けた時点で、1位の泉崎村との差は1分21秒。すでに周囲からは「飯舘村の優勝は無理かも」とささやかれていました。

しかし、チーム監督も努めた森永選手が区間5位の力走を見せ、ついに通算タイムで泉崎村を逆転。総合順位も11位まで押し上げ、村の部トップでゴールテープを切りました。

優勝争いが最終区までもつれ込む接戦となった今大会。飯舘村の通算タイムは5時間26分34秒で、2位の泉崎村に38秒差をつけての優勝。見事に3年連続、通算13回目の優勝を果たしました。



▲ゴールするアンカーの森永選手

ー第17回ふくしま駅伝ー 飯舘村チームの記録

区間（距離）	選手名（○は村の部区間賞）	記録	区間順位	通算順位
1区（4.0 km）	武田 美由紀	15:26 参考記録	19	19
2区（8.3 km）	藤井 慶介	26:17	7	6
3区（5.7 km）	須田 幸正	20:10	42	14
4区（7.3 km）	高田 涼	23:39	9	11
5区（5.9 km）	大内 龍太郎	19:00	3	6
6区（8.3 km）	巻野 修一	26:21	6	7
7区（5.4 km）	佐藤 諒	18:58	26	7
8区（5.4 km）	川村 公大	20:36	59	12
9区（3.0 km）	梶沢 涼香	10:42	25	12
10区（9.2 km）	佐藤 彰洋	30:15	38	14
11区（3.9 km）	横山 壱耶	14:42	14	14
12区（7.0 km）	加藤 輝彦	23:05	10	11
13区（4.8 km）	菅野 茂則	17:01	26	13
14区（5.7 km）	川村 ひとし	21:39	57	16
15区（3.4 km）	佐藤 彩華	12:36	10	14
16区（8.4 km）	森永 伸一	26:07	5	11

1区で、審判員のミスにより選手全員が競技場を1周多く走ったため、参考記録扱いとなりました

大会を終えて —ふくしま駅伝—



▲優勝カップや優勝旗を受け取る選手代表（表彰式）

飯館村チーム メンバー紹介



◀最後は全員でパンサイ三唱
(健闘祝賀会)



健闘祝賀会でのコメント (敬称略)

- 1区 武田美由紀 緊張と不安とプレッシャーが大きかったが、みんなの支えの方が大きく、何とか走ることができた。もっと強くなつて、チームの役に立てるよう頑張りたい。
- 2区 藤井 慶介 今年の大会は緊張せずに走れた。12月に原町高校が全国大会へ出場するが、自分もそのメンバーに入っている。この大会は全国で走るためのアビールになるので、力を入れていきたい(笑)。
- 3区 須田 幸正 先月までは大変調子が良かったが、今月の消防署駅伝大会で肉離れを起こしてしまい、思うように走れない日々が続いた。来年はこのリベンジを果たしたい。
- 4区 高田 涼 とにかく前を詰めることを意識して走った。来年も同じ区間を走れたらもっと良いタイムを出して、総合でも上位を目指したい。
- 5区・主将 大内龍太郎 自分の区間まで良い流れだったので、自分をもっと良い流れをつくって次へつなぎたいと思つて走った。高校卒業後も陸上を続けたい。
- 6区 巻野 修一 この大会で何かをつかもうという目標を立てていた。村にお世話になったので、恩をかせそうと思つて走った。今度の箱根駅伝のメンバーに入っているが、まだ走るかどうか分からない。走った時は応援をお願いしたい。
- 7区 佐藤 諒 今回は去年と同じ区間だったので、あまり緊張せずに走れた。設定タイムより遅かったため、気持ちの面で負けてしまったと思つた。
- 8区 川村 公大 レースに集中できたし、悔いの残らない走りができた。沿道で応援してくれた方々に感謝している。
- 9区 柊沢 涼香 初めての出場で不安だったが、何とかゴールできて良かった。応援してくれた人たちに感謝したい。
- 10区 佐藤 彰洋 設定タイムより遅れてしまい、みんなに迷惑をかけた。中高生に助けてもらった。来年の結果に期待して欲しい。

- 11区 横山 亜耶 監督から「頼んだぞ」と言われたのに、設定タイムをクリアできず悔しかった。明日からしっかり練習を始め、来年は先輩らしい走りを見せたい。
- 12区 加藤 輝彦 毎年飯館村チームの雰囲気を見て、自分のやる気を高めている。飯館村独自の、勝つための練習や周りの応援・支援は他チームにはないと感じている。強さの秘訣はこの環境だと思つた。
- 13区 菅野 茂則 設定タイムより遅かったが、この分は来年頑張りたい。このチームが一つにまとまった時は、本当に強いと思つた。
- 14区 川村 仁 初出場でも緊張したし、レース前から前を追う展開になると予想していた。最後は監督が何とかしてくれると信じてタスキをつないだ。
- 15区 佐藤 彩華 タスキをもらった時、「自分が差を詰めた。今年失敗した分、来年はもっと頑張りたい。」
- 控え 渡部 誉典 15回目のメンバー入りなのに初めての補欠で、みんなに申し訳なく思っている。飯館村が総合で1けたに入賞するのを、自分が走って実現させたいと改めて思ったので、自身を奮い立たせてこれからまた頑張りたい。
- 控え 林 英滋 このような素晴らしい選手の仲間に入れて嬉しく思っている。リードを許していたが、最後はやってくると信じていた。これは毎年優勝している経験の差だと思つている。
- 16区・監督 森永 伸一 飯館村は個人毎の力で見ると30、40位のチームだが、駅伝というみんなで取り組んだ成果が11位。そして、村の部では目先のハードルをしっかり飛び越え、次の目標にまた立ち向かうことができた。これは、今までみんなが協力したり、信頼・信用したり、実践があったから。1区がスタートし自分がゴールするまでがみんなの力。人より1センチ、1秒の頑張りが積み重なってゴールに来たと思つた。これからもご指導やご声援をお願いしたい。